

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 49号

2013/05/20 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：先週とほぼ同じレンジ内での取引。上値は投機筋の売りで抑制

①週最高：LDN 市場£ 1,568 / NY 市場\$2,353 (5月14)	先週比 LDN-£ 2/NY - \$49
②週最低：LDN 市場£ 1,529 / NY 市場\$2,294 (5月16日)	先週比 LDN+£ 2/NY - \$6
週内差額 (①-②)：LDN 市場£ 39 (傾向→) / NY 市場\$59 (傾向→)	

【5月13日(月)】ニューヨーク、ロンドンとも反発

ニューヨーク、ロンドン両市場とも反発。最近の下げ局面で下値支持線が確認されたことから、商業筋、投機筋ともに買いに転じた。

ニューヨーク市場の7月きりは26ドル(1.1%)高の2326ドルで取引を終えた。強い支持線が確認されたことで、空売りの買い戻しや新規の買いが膨らんだ。ディーラーによると、支持線は2288ドルの水準という。

ロンドン市場の7月きりは20ポンド(1.3%)高の1547ポンドで引けた

【5月14日(火)】両市場とも続伸

ニューヨーク、ロンドン両市場ともに続伸。ニューヨーク市場の7月きりは27ドル(1.2%)高の**2353ドル**、ロンドン市場の7月きりは21ポンド高(1.4%)高の**1568ポンド**で引けた

【5月15日(水)】ニューヨーク、ロンドンともに反落

ニューヨーク、ロンドン両市場ともに反落。ロンドン市場の7月きりは、2ポンド(0.13%)安の1566ポンドで引けた。

ニューヨーク市場の7月きりは、9ドル(0.4%)安の2344ドルで終了した。

ディーラーらによると、2012～13年の世界的な需給が緩やかに逼迫(ひっばく)するとの見通しから、ココア相場は引き続き支えられているが、十分な在庫が上値を抑える可能性があるという

【5月16日(木)】続急落=テクニカルな売りが主導

ココア先物は、ニューヨーク、ロンドン市場ともに続急落。投機筋のテクニカルな売りが主導した。

ニューヨーク市場の7月きりは、50ドル（2.1%）安の2294ドルで終了し、3月上旬以来の大きさの下落となった。

ロンドンの先物ブローカーは「最近の上昇を受けた利益確定売り」と指摘した。ロンドン市場の7月きりは、37ポンド（2.4%）安の1529ポンドで終了し、1月以来の大きさの下落となった。（

【5月17日（金）】両市場とも反発

両市場とも反発。

ニューヨーク市場の7月きりは、6ドル（0.3%）高の2300ドルで終了。前週末終値比では変わらずだった。

ディーラーによると、市場は西アフリカ諸国の2012～13年度のミッドクロープを注視している。一部ではミッドクロープ見通しが悪化するとのうわさもある。ロンドン市場の7月きりは、20ポンド（1.3%）高の1549ポンドで引けた。

2、ガーナカカオ豆着荷数量 5月2日現在で前年対比 11.4%減 658,663 トンに。(5/15)

10月12日から開始されたガーナの2012-2013年クロープの5月2日までの着荷数量が合計で658,663トンとなり、前シーズンの同時期までと比較し11.4%減少となっていることがココボードの発表で判明した。

4月29日からの5月2日までのメインクロープの33週目の1週間では20,375トンの着荷数量となり、前週の12,002トンから増加する結果となった。

ガーナはコートジボアールに次ぐ世界第2位のカカオ生産国で今シーズンは年間80万トンの集荷数量を予測している。

3、コートジのカカオ豆着荷量、5月12日時点で112万5,000トン、輸出業者推計(5/14)

複数の輸出業者によると、昨年10月に始まった今年度のコートジボワールの主要2港（アビジャン港、サンペドロ港）のカカオ豆着荷量は、5月12日時点で推計112万5000トン前後だった。前年同期は111万8000トン。また、5月6日～5月12日の1週間の着荷量は推計2万3000トン前後と、前年同期の1万5000トンを上回った。

***今週まででついに今までの前年を下回る着荷数量のペースからを超えて前年を上回るペースになった。また4月、5月の毎週の着荷数量は前シーズンより多くの着荷数量が報告されており、このペースが続けば昨年を上回る着荷数量になると期待できるが、ミッドクロープの終盤に収穫数量が大きく落ち込むことが予測されており、当面着荷数量の変動には注意が必要と思われる。**

4、アジア市場) ココアバターレシオ過去4年の最高値を更新、買付けは少ない状況(5/15)

- ・バターレシオは過去4年で最高値だか、今後下がる可能性も高い。
- ・ココアパウダー価格は変わらず。中東からの引き合いがある。

高いココアバターレシオは、チョコレートメーカーからの引き合いを少なくさせているが、磨砕業者筋によればココアパウダーに対しては7月9日に開始される今年のラマダンに合わせた中東からの引き合いがあったようだ。

ココアバターのレシオはロンドンのカカオ豆先物価格に対して2.0と今月に入ってから変わっていないが、ある磨砕業者によれば買い手の興味を引く為に2.0より少し値下げした価格を提示している場合もあるようだ。

『現実的にみれば、ココアバターは2.0レシオより少し下がって1.96-1.98程度のレンジになることが必要だと考える。多くの書いては既に必要数量を買い抑えていると思われる。我々は、バターのレシオは下がらなければならないと考えているし、少しレシオが下がればココアバターを売っていかうと考えている』シンガポールのディーラーは語る。

『私は、パウダーの価格はこれ以上下がるとは思わない、現在の状況では磨砕業者はココアバターが販売出来るまではココアパウダーの販売も控えているからだ。多くの磨砕業者は損失が出る為ココアパウダーは\$2,000/トン以下での販売はしたくない為である。』

『買い手は1.97レシオでの買付けを提示したが、磨砕工場は2.0レシオを下げなかった為、取引は成立しなかった』他のシンガポールのディーラーは説明した。

ココアバターのレシオは、アジアの第1四半期のカカオ豆磨砕数量が前年対比で11%減少、過去2年以上で最低の数値となったことから供給懸念が浮上し、その後一気に上昇した。

アジアカカオ協会は、減少の理由を述べていないが、ディーラー筋の話では、ココアパウダーの需要が非常に低かった為、磨砕業者が生産調整を行った為だと言われている。ココアパウダーの価格は2013年の1月の頃に比べて1/3以上下落している。

アジア市場でのココアパウダーの現在の価格は変わらず\$2,100-\$2,300/トンであるが、いくつかの磨砕業者は鈍いココアバターの価格を相殺する為に価格を上げようとしている。

『私は、ココアパウダーは\$2,500-\$2,600/トンになるべきだと考えている。カカオ豆の価格も上昇しているし買い手がないにも関わらずココアバターの価格も高い』マレーシアの磨砕業者は言う

『中東からの需要は出てきている、今週はイラクなどの中東の国々に沢山販売した。市場には中東からの引き合いは確かにあるが、彼らが本当に買う意欲があるか、ただ価格を調査しているだけか分からない』

5、インドネシア銀行発表の2013年3月までの農作物輸出数量(5/17)

月／商品	Palm oil (単位；百万トン)	Cocoa beans (単位：トン)	Coffee beans (単位：トン)
March	1.529	14,000	31,000
February	1.760	14,000	35,000
January	2.295	14,000	30,000
December	1.833	10,000	34,000
November	2.260	14,000	47,000
October	1.448	9,000	60,000
September	1.853	26,000	69,000
August	1.381	8,000	47,000
July	2.016	15,000	58,000
June	1.076	12,000	38,000
May	1.015	19,000	30,000
April	1.347	9,000	20,000
March	1.718	14,000	15,000
February	1.321	19,000	15,000
January	1.674	16,000	15,000
2012 TOTAL:	18.942	171,000	448,000

弊社取扱いカカオ製品案内) ウガンダ産カカオ豆

西アフリカではガーナ、コートジボアールが有名ですが、他国の品質も、管理レベルがガーナ、コートジ以上の生産者達が現れてきています。

今回は弊社の扱うウガンダ産カカオ豆のご紹介です。

ご興味のある方は、どんな情報でもお問合せくださいませ。



今週の関連ニュース)

政府、牛肉関税引き下げ検討＝コメと砂糖は維持―日豪EPA (5/16)

政府がオーストラリアとの経済連携協定（EPA）締結交渉で、一部の豪州産牛肉の輸入関税を引き下げる検討に入ったことが15日、分かった。冷凍牛肉の関税を現行の38.5%から約30%に下げる案で豪州側と調整する。コメ、砂糖などの農産物関税は現行の税率を維持する。

2国間の非公式交渉で、豪州の日本車に対する輸入関税（5%）の撤廃期間などで折り合いがつけば、2012年6月以来となる交渉会合を今夏までに開き、合意を目指す。

日豪交渉は07年スタート。農産物輸出大国である豪州との交渉開始に先立ち、衆参両院の農林水産委員会は、コメ、小麦、牛肉、乳製品、砂糖などを関税撤廃対象から除外するよう求める決議を採択した。

日本側はこれまでの交渉で、牛肉以外の重要農産物の関税を維持できるめどを付けたもようだ。

豪州産の冷凍牛肉は、主にハンバーグなど加工用に使われている。政府は国産牛肉との競合が少なく、関税を引き下げても国内農業への影響が小さいと判断した。豪州は環太平洋連携協定（TPP）交渉のメンバー。牛肉をめぐるっては、日本が米国産牛肉の輸入制限を13年2月に緩和したため、日本市場で豪州産と米国産の競争が激しくなった。豪州にとっては、米国産牛肉との競争を有利に進めるためにも、日豪EPAを早期にまとめたたい考えだ。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp